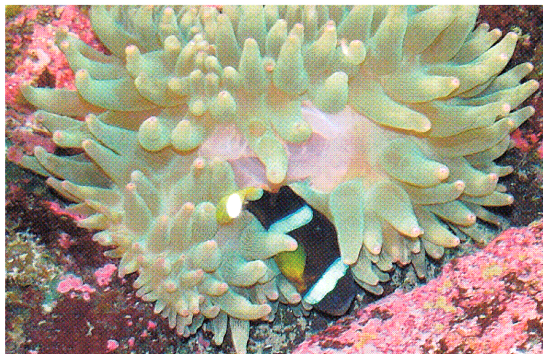
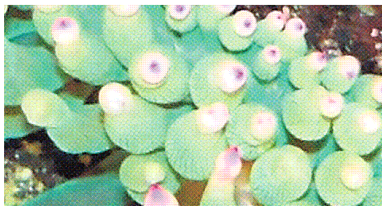




(右から反時計回りに) クマノミと共生するサンゴイソギンチャク▷触手の先が膨らんでいる▷波打ち際を再現した「磯の潮だまり水槽」

## サンゴイソギンチャク

学名 *Entacmaea actinostoloides*

分類 ウメボシイソギンチャク科

分布 本州中部から九州の浅い海

特徴 口側の触手が出ている口盤と呼ばれる部分の直径が10センチを超える大型のイソギンチャク。触手の先端より少し下を膨らませることが多い。卵を産んで増える有性生殖も行うが、主に自分の体を分裂させて増えるため、周辺に群生地を作る。

## 植物に見えても動物

海の生き物で、植物が動物か分からないときれるのがイソギンチャクです。その中で今回はサンゴイソギンチャクを紹介します。

イソギンチャクは、口から海への生き物で、植物が動物を食べ消化して生きる物から分らないときれるのがイソギンチャクです。その中で今回はサンゴイソギンチャクを紹介します。

イソギンチャクは、口から海への生き物で、植物が動物を食べ消化して生きる物から分らないときれるのがイソギンチャクです。その中で今回はサンゴイソギンチャクを紹介します。

イソギンチャクは、口から海への生き物で、植物が動物を食べ消化して生きる物から分らないときれるのがイソギンチャクです。その中で今回はサンゴイソギンチャクを紹介します。

## おもしろ生き物図鑑

ヤクは後者です。体の下部は「足盤」と呼ばれ、吸盤のようになっています。足盤の筋肉は発達して、移動することもできます。円柱形の胴体の上には触手が密集して、その真ん中に口があります。張り付いた場所で獲物を待ち、触

手を使って植物プランクトンや小型の動物を捕まえます。植物のように見えて、しっかりと肉食です。触手は太くて短く、先端より少し下が膨らむことが特徴です。膨らんだ部分では特にし模様がよく見えます。かごしま水族館1階の波打ち際を再現した「磯の潮だまり水槽」では、波に揺られているサンゴイソギンチャクの様子を見ることが出来ます。なかには、熱帯魚のクマノミがすむサンゴイソギンチャクもいます。3日に1回の餌の日にはオキアミを与えているので、係員に問い合わせてみましょう。運が良ければ食事風景が観察できます。

（展示課学習交流係主任・船川賢治）